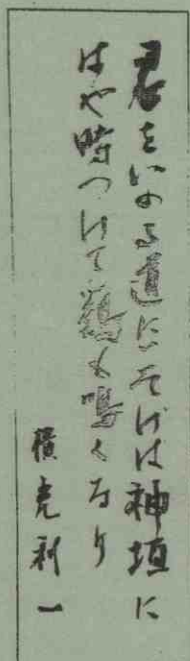
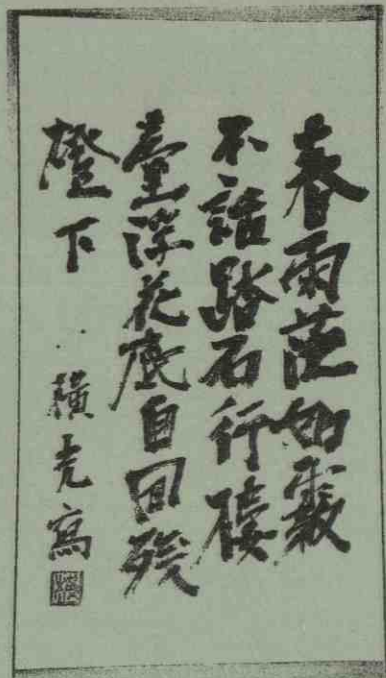




大正7年・20歳頃(早稲田大学時代)の利一



春雨茫如霧／不語踏石行樓／台浮花鹿自回殘燈下／横光写
鳥飛而似／鳥魚行而／似魚／横光
難是言／休即便休／禪月詩／横光
君をいのる道にいそげば神垣にはや時つづけて鶏も鳴くなり／横光利一

※以上4点は、北出橋夫氏(佳蹟蔵主人・上野市)所蔵

横光利一の世界

～父と母のふるさと～

ごあいさつ

横光利一の父・梅次郎は、宇佐郡長峰村(現・宇佐市)の出身。母・こぎくは三重県阿山郡東柘植村(現・伊賀町)の出身。このたび父と母のふるさとの小学生が、ゆかりの作家・横光利一が縁で相互交流することになりました。

まず10月9日から11日まで、宇佐の小学生が伊賀町を訪問。16日から17日の二日間、柘植町野村地区の子どもたちを宇佐にお迎えします。

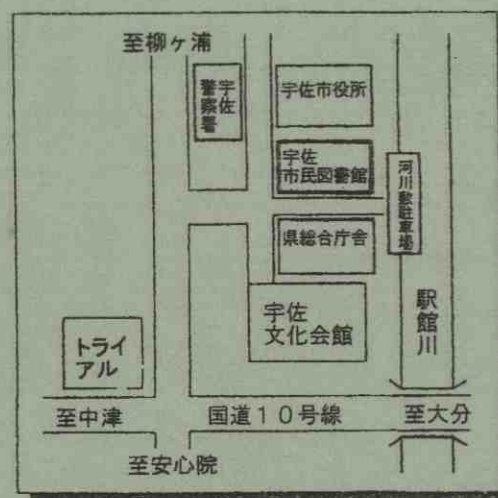
人と人との交流に加え、上野市在住の横光研究家・北出橋夫氏(佳蹟蔵文庫主)所蔵の貴重な横光利一関連自筆資料(10点)をおかりして、資料の交流をもはかることができました。

今回の展示では、地元宇佐の資料とあわせ、長峰小学校の児童が三重県を訪ねたときの写真をまじえながら、母のふるさと伊賀町や、利一が旧制中学時代を過ごした上野市を紹介します。

郷土の作家の人と作品に親しんでいただき、横光利一がひろげる交流の輪を一層深めるきっかけになれば幸いです。

2004年10月16日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー



平成16(2004)年10月16日 / 発行・宇佐市民図書館
大分県宇佐市上田1017-1 TEL.0978-33-4600
URL.<http://www.usa-public-library.jp/>

横光利一の世界

～父と母のふるさと～



横光利一の父・梅次郎

母・こぎく、姉・静子と利一(中学時代)

2004. 10. 16 ～ 11. 28

10:00 ～ 18:00 (日曜のみ ～ 17:00)
休館日…毎週月曜日・祝祭日・月末木曜日

宇佐市民図書館
渡網記念ギャラリー

横光利一の世界

～父と母のふるさと～

横光利一と宇佐

大分県宇佐郡長峰村に本籍あり(自筆年譜)

横光利一の父・梅次郎は宇佐郡長峰村(現・宇佐市)生まれ。トンネル工事や水路工事にたずさわリ、全国を転々とした。利一は、父の仕事先の福島県で生まれた。幼少期に父に連れられて宇佐を訪ねたり、兵役点呼で本籍地へ帰ったことがある。作家となつてからの昭和十八年に先祖の墓参のため西福寺を訪ね、「これからは再々帰ってきます」と語つたが、四年後の昭和二十二年に四十九歳の若さで亡くなった。しかし、最後の帰郷体験は未完の大作「旅愁」に生かされ、ふるさとに寄せる想いは作品のなかにいまもいきづいてる。

横光利一と柘植(つげ)

小学校にいたころの記憶を故郷とすれば私の故郷は伊賀の山中の村の柘植である(三つの記憶)

父・梅次郎が加太トンネル(関西本線)の工事で三重県の柘植(現・伊賀町)を訪れたとき、投宿先の中田こぎくと出会い結婚。利一の上に姉・静子がいた。母は松尾家の家系といわれ、利一は芭蕉の血が流れていると言ひ聞かされて育つた。父は出張が多く、家族は母の実家のある柘植で生活することが多かった。利一の絶筆小説「洋燈(ランプ)」は幼少期の柘植の思い出で書き出されたが、原稿用紙に十一枚目まで書いたところで倒れた。

横光利一と上野

三重県上野中学を卒業後、早稲田の文科に入学(自筆年譜)

三重県立第三中学校(現・上野高校)入学後、利一は母と離れて下宿生活をはじめる。スポーツ万能で、文才にもめぐまれ、卒業時に校友会雑誌に載つた「修学旅行記」は、のちの新感覚派の文学を予兆させる独特の文体。この時期、宮田おかつに初恋をし、その心情は小説「雪解(ゆきげ)」に結実した。卒業後、早稲田大学に進み、上京するも、学費未納や長期欠席で除籍・復学をしながら小説家としての習作期に入ってゆく。

出展目録

横光利一の世界 ～父と母のふるさと～

【原稿】

洋燈／横光利一(絶筆)11枚	11点
父／横光象三(横光利一長男) 北出楯夫氏(佳讀蔵主人・上野市)所蔵	6点

【軸物】

春雨茫如霧／不話踏石行楼／台浮花鹿自回殘燈下／横光写	1点
鳥飛而似／鳥魚行而／似魚／横光	1点
難是言／休即便休／禅月詩／横光	1点
君をいのる道にいそげば神垣にはや時つげて鶏も鳴くなり／横光利一	1点
※以上4点は、北出楯夫氏(佳讀蔵主人・上野市)所蔵	
松の芽の伸び美しき雲の峰／横光	1点

【額装】

カムランの島浅黄なる更衣／横光利一	1点
-------------------	----

【横光利一書簡】

庄野誠一宛「甚だ失礼しておりました。～」 2枚+封筒	3点
木内高音宛「過日はお手紙頂き御礼申上ます～」 2枚+封筒	3点
白川渥宛「先日も手紙を書いたのですが～」 2枚+封筒	3点
大熊信行宛「この度は御高著賜り～」 1枚+封筒	2点
石塚喜久三宛「お手紙いただきばなしにて～」 1枚+封筒	2点
※以上5点は、北出楯夫氏(佳讀蔵主人・上野市)所蔵	

【書籍・雑誌】

横光利一著『雪解』養徳社・1946	1点
横光利一著『雪解(ゆきげ)』上野市:横光利一研究会・1998	1点
未完の小説『旅愁』の最後となつた「梅瓶」の掲載された雑誌『人間』 鎌倉文庫・1946	1点
横光利一集『新日本文学全集(第一巻)』	1点
改造社・1940 ※巻末に自筆年譜を収録	
「父」の掲載された「現代日本文学全集・月報8」	1点
筑摩書房・1954 ※北出楯夫氏(佳讀蔵主人・上野市)所蔵	
『伊賀町のあゆみ(伊賀町史)』伊賀町役場・2004	1点
森富子「森敦との対話」の掲載誌「すばる」2004年10月号	1点
森富子著『森敦』との対話』集英社・2004	1点

【写真】

横光利一の父・梅次郎	1点
早稲田時代の記念集合写真 ※富永美津子氏提供	1点
宇佐市光岡城跡にある「旅愁」文学碑	1点
横光家の檀那寺・西福寺(宇佐市赤尾)	1点
宇佐市赤尾にある横光一族の墓地	1点
母・こぎく、姉・静子と利一(中学時代)	1点
横光公園の「洋燈(ランプ)」のモニュメント	1点
横光公園の利一のプレートで	1点
柘植小学校児童による交流会での発表	1点
長峰小学校児童による交流会での発表	1点
伊賀町柘植町にある横光利一文学碑「蟻台上に餓えて月高し」	1点
「蟻台上に餓えて月高し」の碑の前で記念撮影	1点
母こぎくの生家跡で	1点
大正7年・20歳頃(早稲田大学時代)の利一	1点
上野城天守閣	1点
三重県上野城内にある横光利一青春碑(川端康成筆)	1点
利一が卒業した三重県立上野高等学校(旧県立第三中学校)	1点
上野高校明治校舎内の横光利一記念室	1点
利一が学んだ当時の面影を残す上野高校明治校舎の教室で	1点
横光利一と森敦(昭10)	1点
雨過山房(自宅)の居間での横光利一	1点
俳聖殿(上野市)	1点
横光利一と岡本太郎(昭11)	1点
父が出張中一家が間借りしていた柘植の親戚宅跡(柘植)	1点
柘植公民館の横光利一展示室	1点
利一が遊んだ芭蕉公園(福地城跡)	1点

【その他】

組紐色紙「古里を遠ざかりたる氷かな／横光」(増井組工房)	1点
「横光利一作品読書感想文コンクール」募集ポスター	1点
(2004伊賀びと委員会事務局)	
「横光利一展パンフレット」上野市:横光利一研究会	1点
「雪解」のつどい パンフレット 上野市・伊賀町共催・1999～	1点
「読んでみてや伊賀町とこの人」伊賀町教育委員会	1点
ビデオ「横光利一とふるさと」	1点
伊賀町教育委員会制作・横光利一研究会監修	
ビデオドラマ『雪解』パンフレット	1点
原作 横光利一 主催:横光利一研究会 1990	
横光公園竣工記念の手ぬぐい 伊賀町・1999	1点
「横光利一 革新の軌跡」(第16回企画展チラシ)	1点
三重県立図書館(文学コーナー) 1998	
宇佐市で発売されたばかりの清酒「利一」(三和酒類) 瓶と箱	2点
※ラベルの文字は「カムランの島浅黄なる更衣／横光利一」の自筆色紙からとつた。	
光岡城の「旅愁」文学碑ミニチュアレプリカ(10分の1)	1点
横光家家系図(おうふう発行『横光利一事典』より)	1点

【パネル】

横光利一年譜／「旅愁マップ(赤尾)」／柘植マップ／横光利一と宇佐／横光利一と柘植／横光利一と上野	6点
--	----